

<展覧会紹介>「春色爛漫 花の宴 培広庵コレクション ザ 美人画」

[2~3]

<イベント報告>「岐阜県美術館名品展

[4]

「ももきねの美 清流の旅～日本画の巨匠と陶芸の人間国宝」

「見せます 魅せます 日本の美 “うつくしの逸品”」

<イベント報告>「いろ・いろいろ 色と作品の世界。」

[5]

「新春展 “虎” ～美の中の虎を捕まえよう～」

令和2年度新収蔵作品紹介

[6~7]

令和4年度福井県立美術館ボランティア 新規会員募集

[8]

ボランティアの会 岐阜県美術館イベント見学会報告

[8]

美術喫茶室ニホ特別メニューのお知らせ

お知らせ

表紙：上村松園《桜可里能図》昭和10年（1935）頃 培広庵コレクション（部分）

だより

MUSEUM NEWS Vol. 170



美 人 画

2022年4月28日(木)～6月12日(日)

休館日 / 5月16日(月)

培広庵コレクション

【開館時間】午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
 【主催】福井県立美術館 【後援】福井新聞社、NHK福井放送局、FBC、福井テレビ、FM福井、福井ケーブルテレビ、さかいケーブルテレビ、月刊URALA
 【特別協力】培広庵コレクション

【料金】一般・大学生1,300円／高校生 700円／中小生 400円

*20名以上の団体は2割引、障がい者手帳をお持ちの方とその介助者1名は半額 *本展チケットで同時に開催のコレクション展/テーマ展「HUMAN BEINGS 創られし人たち/新収蔵品紹介」もご観覧いただけます *新型コロナウイルス感染拡大防止のため、入場制限や中止をする場合があります



—2—

画像提供：培広庵コレクション

“美人画の玉手箱”培広庵コレクションを福井で初公開!

菊池契月《元禄美人》
大正末期

福井出身の内海吉堂に二時師事し、京都で絵を学んだ契月(1879～1935)は四条派の伝統に渡欧経験から得た刺激や古典学習の成果を加え、新古典主義と呼ばれる画風を確立しました。本図では元禄期(1688～1704)の風俗を描きつつも、ぼかしを用いた柔軟な目元や、しなやかさの感じられる表現などから新しい時代の画家としての試みがうかがわれます。



上村松園《桜可里能図》
昭和10(1935)年頃

1940年は、京都の町娘を多く描きました。オシャレに敏感な年頃らしい華麗な着物から、春めく雰囲気が伝わってきます。



池田蕉園《秋思》
大正2(1913)年頃

松園とともに近代の女流画家を牽引した池田蕉園(1886～1917)。浮世絵の流れを汲む水野年方(1867～1926)に師事し、第一回文展から入選を重ね、上村松園、島成園とともに「三園」として高い人気を誇りました。同門の池田輝方(1877～1927)と結婚。夫婦合作を多数制作しました。本図では秋の夜長に読書をしながら微睡む女性を愛らしく描いています。



THE BEAUTIFUL WOMAN PICTURE
品のよい美人画で知られる培広庵コレクションから選りすぐりの作品を一挙公開。江戸時代の浮世絵からモダンな昭和の作品まで、伝統の中に新しい風を取り入れ、時代と共に移りゆく美人画の系譜を辿ります。

京都画壇において新興美人画と呼ばれる画風を開拓した神草(1879～1933)は竹久夢二風に官能的な舞妓を描く作品で知られました。本図では般若の仮面によって美しさの中に秘められた女性の内面をおわせています。

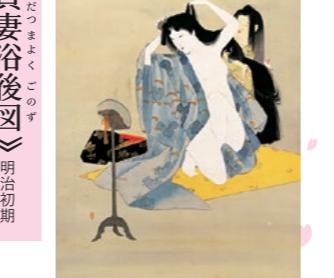


とりわけ本展では、女性が描く美人画に着目し、女性の社会進出と芸術との関係に焦点を当てます。近代の日本画壇において女流画家は珍しい存在でした。しかし、それぞれの事情を乗り越えて文部省美術展覧会などで活躍する彼女たちは、多くの女性にとって憧れの存在となっていました。巨匠として名高い上村松園をはじめとして、女性ならではの観点で紡ぐ作品の数々からは画家たちの美への探求がうかがわれます。

このほか渡辺省亭、鍋木清方、竹久夢二など華やかな美人画の世界をご堪能いただけます。



鍋木清方門下で伊藤深水、寺島紫明とならび三羽鳥と称された秀峰(1898～1944)は新しい時代の美人画を追求しました。本図は歌舞伎の赤姫を思わせる豪華な花簪をつけた女性を魅力的に描いています。本展では第九回帝展で特選を受賞した《安倍野》も展示します。



近年再評価されつつある省亭(1851～1918)は歴史画を学び、西洋画の技法を取り入れた精緻な花鳥画で海外からも高い評価を得ました。『太平記』から題を探った本図では、その美貌が故に悲劇を招く御前を肉感たっぷりに描いています。



独特的の女性像で現在でも高い人気を誇る夢二(1884～1934)は挿絵、版画などを中心に活躍し、大正時代の美人像を代表する作風で一世を風靡しました。本図では、扇を投げて的を倒すというお座敷遊びに興じる二人の女性を爽やかなパステル調の色彩で示しています。



近代美人画の和レトロでモダンな世界観に触ることのできるイベントを多数開催予定!
詳しくはQRコードからご確認ください。



《イベント報告》

岐阜県美術館名品展

2021 9/18(土) ▶ 10/31(日)

特別企画展

ももきねの美 清流の旅 日本画の巨匠と陶芸の人間国宝



隣り合う県として、いにしえより豊かな関係を結んできた岐阜と福井。中部縦貫道の全線開通を機に一層の発展が期待される両県交流のシンボルとして両県県立美術館の連携による展覧会を開催しました。『万葉集』より岐阜をうたった歌の枕詞“百岐年(ももきね)”を手掛かりに、岐阜県美術館の名品から厳選された美術品46点を展示。岐阜を代表する巨匠であり、福井ゆかりの岡倉天心が創設した日本美術院に初期より参画した川合玉堂。そして天心に見出され、再興日本美術院の未来を担った前田青邨など、近代から現代に至る岐阜を代表する画家の大作は圧巻の見応えでした。また、人間国宝を数多く輩出する岐阜ならではの陶芸作品を加えることで、山水と歴史により醸成された美術品の数々を通して、清流の国・岐阜の美の物語を旅する気分でご堪能いただきました。

会期中は岐阜県美術館の特徴の一つである参加型アートコミュニケーション作品「SuchSuchSuch」を岐阜県美術館アートコミュニケーター(愛称:～ながラー)と福井県立美術館ボランティアのコラボにて開催。作品を観て感じたあんなこと、こんなことを話しながら楽しむ鑑賞プログラムを体験しました。さらに、岐阜県美術館を舞台にスタッフとしてのエピソードをつづった『ミュージアムの女』(KADOKAWA(2017年)、岐阜県美術館twitterにて更新中)の著者である宇佐江みつこ氏に擬似化(?)した似顔絵を描いてもらえる「似顔絵会」、大作を前にしたミュージアムコンサートなどを開催。ミュージアムショップには岐阜県のアンテナショップ「THE GIFTS SHOP」とのコラボにて感度の高い特産品をセレクトしたお土産コーナーが登場。このほか、講堂では映画「ダ・ヴィンチ・コード」に参画した撮影チーム(フランス)が手掛けた岐阜県PR動画「Go Gifu “Timeless Japan, Naturally an Adventure”」を特別上映するなど、多方面から岐阜県の美術をご体感いただきました。

また、2階会場では同時開催にて福井にゆかりの深い名品を展覧。若狭地方に伝わった重要文化財《世界及日本図屏風》など近世から近代にかけての名品を岐阜の「清流」に対する「海」をテーマに展示しました。

《関連イベント》

●記念講演会

「岐阜県美術館コレクションの歩み」

[日時] 令和3年9月19日(日)

[場所] 講堂 [参加人数] 40名

[講師] 青山訓子氏
(岐阜県美術館 学芸課長)



●宇佐江みつこ ネコ似顔絵会

[日時] 令和3年10月24日(日)

[場所] 美術館喫茶室ニホ

[参加人数] 10名

[作家] 宇佐江みつこ氏(『ミュージアムの女』著者)



●美術館喫茶室ニホ 学芸員トークサロン

[日時] 令和3年9月26日(日)

[参加人数] 10名 [講師] 展覧会担当学芸員

同時開催 コレクション/テーマ展

見せます 魅せます 日本の美 “うつくしの逸品”

●「ナンヤローネ アートツアー SuchSuchSuch」

[日時] 令和3年10月23日(土)、30日(土)

[場所] 展示室、研修室

[参加人数] 計30名

[講師] 岐阜県美術館教育普及係、
アートコミュニケーター(愛称:～ながラー)
[協力] 福井県立美術館ボランティア



「ナンヤローネ アートツアー SuchSuchSuch」
のようす

●ミュージアムコンサート

[日時] 令和3年10月9日(土)

[場所] 展示室 [参加人数] 28名

[演奏] 水谷優子氏、伊藤明美氏



ミュージアムコンサートのようす

●見どころ解説会

[日時] 令和3年9月25日(土)、10月2日(土)、9日(土)、16日(土)

[参加人数] 計125名 [講師] 展覧会担当学芸員

《イベント報告》

いろ・いろいろ
色と作品の世界。

2021 12/15(水) ▶ 2022 1/16(日)

今井俊介《untitled》(部分) 平成30(2018)年

本展では私たちの暮らしに彩りを添える「赤」、「緑」、「黒」、「黄」の4つの色をピックアップし、福井県立美術館のコレクションから絵画・工芸作品をそれぞれの色に分け、色の歴史や作品に使用されている色の関係などを紹介しました。展覧会の冒頭では、今井俊介《untitled》や鬱図《飛べ・比翼の鳥》など様々な色を使用している色彩豊かな作品も合わせてご覧いただきました。また、子供向けの鑑賞ワークシートを配布したところ、親子で鑑賞されている姿が印象的でした。



今井俊介《untitled》

《関連イベント》

●美術館学芸員による見どころ解説会

[日時] ①令和3年12月18日(土)14:00~

②令和4年1月8日(土)14:00~

(新春展“虎”との共同解説会)

[会場] 展示室

[参加人数] ①16名 ②29名



●親子鑑賞デー

[日時] 令和4年1月9日(日)

9:00~12:00

[会場] 展示室

[参加人数] 24名

●学芸員トークサロン

[日時] 令和4年1月9日(日)

17:00~18:00

[会場] 美術館喫茶室ニホ

[参加人数] 7名

《イベント報告》

新春展“虎”

2021 12/24(金) ▶ 2022 1/16(日)

～美の中の虎を捕まえよう～

令和4年の干支「とら」にちなみ、古くから美術品の題材として好まれてきた虎を主題とした展覧会を開催しました。

日本には生息していない虎。動物園も写真も無い時代の作家たちは、見たことの無い虎をどのようにして描いていたのでしょうか。鶴澤養琢《龍虎図屏風》、英一蝶《四睡図》をはじめとして江戸時代から近代まで、多様な作家による虎たちが登場しました。実物の虎を見ることができなかった時代の作家たちは絵手本のみならず、輸入品の毛皮や、時には頭蓋骨や足の骨まで参考にして虎を描いたと言います。また、身近にいた猫たちも虎のモデルとなったことから、ネコ科の動物を描いた作品もあわせてご紹介しました。展示室入口では、ハンターの気分で美術品の中に潜むさまざまな虎を探すヒントとなるワークシートを配布し、画家たちが想像をふくらませて描いた個性豊かな虎たちとの出会いをお楽しみいただきました。



展覧会の様子



ワークシート
一美術館にひそむ虎をつかまえよう

令和2年度新収蔵作品紹介

【購入】山田介堂「青緑山水江山春蘭図」

1917(大正6)年 185.0×73.4cm 絹本着色 掛軸装

山田介堂(1869～1924)※は、福井県坂井市(旧坂井郡丸岡町異)生まれの南画家。40代に水墨や青緑山水で自己の表現を確立し、京都画壇に重きをなした。大正6(1917)年に描かれた本作は緑青や、代赭、群青を多用し青緑山水を描き始めた40代後半のもので、画面左上には、中国北宋の詩人・蘇舜欽が春の情景を表現した五言律詩一梅の花木が華やぎを加える深山の春霞がそのうち消え去り、やがて大きな夕日が目を楽しませてくれるだろうが書かれる。ゆったりとした時間の流れを感じさせる、介堂の自指した詩画一体の境地がここにある。

※介堂の生年は明治2(1869)年、もしくは明治3(1870)年ともいわれる



【購入】島田墨仙「廓然無聖」

1931(昭和6)年 119.3×87.3cm 絹本着色 掛軸装

本作は福井出身の歴史人物画の名手・島田墨仙(1867～1943)が、昭和6(1931)年第12回帝展に出品したもので、その名を高めた円熟期の作品である。画題は、中国禪宗の祖・菩提達磨(以下、達磨)が梁の武帝に仏法の最も大切な真理を問われ、「廓然無聖」一からりとした無心の境地で聖などない—と答えた語からとっている。古くから伝えられる恰幅よく黒い髭の達磨のイメージから脱し、南国の人らしい褐色の肌に年齢に相応しい白い髭をうつすら生やさせ、かくしゃくとした老人の姿として描いたところに墨仙の独自性がある。



【寄贈】鈴木松年「羅漢善星尊者図」

1905(明治38)年 112.1×35.8cm 絹本着色 掛軸装

豪快な作風で「曾我蕭白の再来」と呼ばれた鈴木松年(1848～1918)は、明治～大正期の京都画壇を代表する日本画家。本図は松年の得意とした松を昇り龍のごとく一氣呵成に描いている。日露戦争戦勝(明治38(1905)年)を記念して制作されたことが印より推察される。



令和2年度新収蔵作品紹介

【寄贈】木村利三郎「City 321」

1976(昭和51)年頃 64.5×50.1cm 紙、スクリーンプリント

神奈川出身の木村利三郎(1924～2014)は、ニューヨークを拠点に国際的に活躍した版画家。“街”をモチーフに様々な版画技法を用いて作られる画面は、独創性が際立つ。特に中期以降のスクリーンプリント技法を高度に応用した作品群は、高い質感を持つ。

「福井小コレクターの会」の中心メンバーが、木村の活動を応援すべく、県内で度々彼の個展を開催。このため多くの作品が、県内の小コレクターの手に渡る等、福井との関わりが深い。作家の円熟期の示す作品を中心に、作風変遷のわかる複数点が寄贈された。



令和4年度 福井県立美術館ボランティア 新規会員募集

福井県立美術館では美術館に集まる情報の整理を担っていただく「新聞班」、および来館者と美術館をつなげる役割を担っていただく「ウエルカムスタッフ班」を募集します。ご興味のある方はご応募いただきますようご案内します。

募集の内容

名 称	新聞班 ※土曜日、もしくは水曜午前に活動できる方	募集人数	若干名
活動内容	1. 新聞整理(美術関係の新聞記事を切り抜き、ファイリング) 2. ポスター、チラシの整理 3. ウエルカムスタッフ班の補助		
名 称	ウエルカムスタッフ班	募集人数	若干名
活動内容	1. 特別展の見どころや作品についての「ちょっと案内」 2. 所蔵品によるテーマ展や特別展の見どころをSNSで発信 3. 学校等の団体鑑賞サポート 4. キッズミュージアムのサポート 5. 新聞班等のレファレンス管理の補助		

1. 活動時の前提条件

- ・福井県が国の緊急事態宣言の対象地域でないこと
- ・福井県から独自の緊急事態宣言が出されている場合、休業養成の内容を踏まえるとともに、美術館の意向を確認すること

2. 募集条件

- ・活動開始時18歳以上の県内在住者
- ・福井県立美術館ボランティアの活動方針に沿って、積極的に活動する意欲を持った方
- ・テーマ展や特別展でのギャラリートークや見どころ解説会、その他フォローアップ研修に参加可能な方
※ギャラリートークや見どころ解説会、フォローアップ研修は主に土曜日に行います。
- ・ボランティア相互連絡のために個人のメールアドレス、携帯電話番号を開示いただける方
- ・会費1,000円(ボランティア保険など諸経費)を負担いただける方
- ・原則無償の活動となります
- ・登録期間は令和5年3月31日までです(美術館の承認により登録更新も可能です)

3. 募集方法

申込締切…令和4年4月15日(当日消印有効)

HPに掲載の申込書にご記入いただき、メールもしくは郵送でお送りください。追って説明会の日時をお知らせします。
※郵送の場合封筒に「ボランティア応募用紙在中」と朱書。

4. 申込先

〒910-0017 福井市文京3丁目16-1 福井県立美術館ボランティア担当
TEL.0776-25-0452 FAX.0776-25-0459 Mail:finearts@pref.fukui.lg.jp

※応募書類はお返しませんのでご了承ください。 ※ご記入いただいた個人情報は募集に関する連絡以外には使用しません。

ボランティアの会 岐阜県美術館イベント見学会報告

◎日 時 令和3年11月3日(水・祝) 参加人数7人

◎見学内容 ■「寄贈記念 守洞春展」ほか、展覧会鑑賞

■～ながラー鳥瞰図 岐阜のアートコミュニケーションは、今ここ！

■～ながラーによる美術館ツアープロジェクト

■ナンヤローネアートアクション「びじゅつかんでキラキラ☆アート見つけ隊！」



日比野館長と「～ながラー」によるシンポジウムの様子

福井県立美術館ボランティアの会では令和3年度より「ウェルカムスタッフ班」を新設し、来館者と美術館をつなげる活動を行っています。昨年9月に当館で開催された「岐阜県美術館名品展 ももきねの美清流の旅」がご縁となり、教育普及活動に力を入れている岐阜県美術館の特別イベントにボランティアの会で参加をしました。

参加者の声



アートツアーに参加して、作品を鑑賞しながら大人だけで対話できたのがよかったです。特に、ファシリテーターの方が話を引き出すのがとても上手で訓練された印象があった。これから、ボランティアの会で出来る活動を考えるきっかけになった。



岐阜県美術館アートコミュニケーター「～ながラー」の活動報告会に參加しました。特に、日比野克彦館長のアドバイスや芸術的な受け答えが印象的だった。



岐阜県美術館の「～ながラー」の活動を見ることなど他館の状況を知ることは改めてとても大事だと実感した。これから、ボランティアの会でも出来る範囲で出来ることをやってみたいと思った。



ザ・美人画展特別メニュー 「やわもち美人パフェ」

ザ・美人画展の特別メニューは、白肌、もち肌、柔肌の美人をイメージしたパフェです。
うっすら桃色をした自家製の苺アイスクリーム、なめらか濃厚プリン、もちもち求肥、カリカリグラノーラなど、食感もいろいろに楽しく仕上げました。

美術館喫茶室 二木

[営業時間] 9:00～19:00
[休業日] 月・火曜日(祝日営業)
*催しによっては火曜日営業
[電話番号] 0776-43-0310
*フリーWi-Fi



Facebook



Instagram



令和4年度 福井県立美術館 実技講座受講生の募集

福井県立美術館では「日本画」「洋画」「素描(デッサン)・水彩画」の基礎講座(4月～5月・10回)と、同内容の専門講座(5～10月・25回)の受講生を募集します。

※詳しくは美術館ホームページ、または館内設置の募集要項をご覧ください。

◎定員

日本画(基礎講座・専門講座)/定員各15名
洋画(基礎講座・専門講座)/定員各15名
素描(デッサン)・水彩画

(基礎講座・専門講座)/定員各30名

◎募集期間

基礎講座 2月15日(火)～3月12日(土)まで

専門講座 3月13日(日)～4月14日(木)まで

令和4年度 福井県立美術館 友の会会員募集

詳しくは、
事務局 (TEL.0776-25-0452) まで
お気軽にお問い合わせください。

年会費	一般会員 2,000円／家族会員 4,000円／特別会員 10,000円
特典	(1)コレクション展・テーマ展無料 (2)友の会ニュース・美術館だよりの無料配布 (3)美術展・実技講座・美術講座・見学会等各行事の案内 (4)美術館の主催する企画展の入場料の割引 (5)一般会員：年間に1枚の企画展無料入場券 家族会員：年間に3枚の企画展無料入場券(見学会は自由に選べます) 特別会員：年間に8枚の企画展無料入場券・十年間に1枚の図録贈呈券
申し込み	4月1日受付開始 ※郵便振替・口座振替によるお申し込みはできません。入会受付は福井県立美術館利用サービス室(友の会事務局)まで

◎2022年4月の
休館日について

館内メンテナンス、展示替え等のため、下記の日程は休館とさせていただきますのでご了承ください。
4月4日(月)～6日(水)、4月11日(月)～12日(火)、4月18日(月)～27日(水)

美術館のHPはこちら▶

